



TITLE:

# On the Loewy structure of the projective indecomposable modules for the group $\Gamma(3^3)$ (Representations of Rings and Duality)

AUTHOR(S):

二宮, 晏

---

CITATION:

二宮, 晏. On the Loewy structure of the projective indecomposable modules for the group  $\Gamma(3^3)$  (Representations of Rings and Duality). 数理解析研究所講究録 1987, 628: 45-65

ISSUE DATE:

1987-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/100000>

RIGHT:

On the Loewy structure of the projective indecomposable  
modules for the group  $\Gamma(3^3)$

信州大教養 二宮 晏 (Yasushi Ninomiya)

$K$  を標数  $p > 0$  の代数的閉体とし,  $G$  を有限群とする。

群多元環  $KG$  に対して, 以下  $KG$ -加群は有限生成左  $KG$ -加群のこととする。  $KG$  の根基を  $J$  とすると,  $KG$ -加群  $M$  に対して,  $J^{l-1}M \neq 0$ ,  $J^l M = 0$  をみたす自然数  $l$  が存在する。そのとき  $M$  の部分加群の列

$$M \supset JM \supset J^2 M \supset \cdots \supset J^l M = 0$$

を  $M$  の Loewy 列といい,  $l$  を  $M$  の Loewy length という。一方

$M$  の socle を  $\text{soc}(M)$  で表わし,  $\text{soc}_i(M)$  を次のように定める:

$$\text{soc}_0(M) = 0, \text{soc}_1(M) = \text{soc}(M), \text{soc}_i(M)/\text{soc}_{i-1}(M) = \text{soc}(M/\text{soc}_{i-1}(M)).$$

そのとき, 上と同じ  $l$  に対して,  $\text{soc}_{l-1}(M) \neq M$ ,  $\text{soc}_l(M) = M$  と

なる。  $M$  の部分加群の列

$$0 \subset \text{soc}_1(M) \subset \text{soc}_2(M) \subset \cdots \subset \text{soc}_l(M) = M$$

を  $M$  の socle 列という。

次に群  $G$  に対して, その最大正規  $p$  部分群を  $O_p(G)$  で表

わし, 最大の正規  $p$  部分群を  $O_p(G)$  で表わす ( $p$  群とは位数が  $p$  で割れない群のこと)。さらに,  $\bar{G} = G/O_p(G)$  における最大の正規  $p$  部分群  $O_p(\bar{G})$  の  $G$  における象像を  $O_{p^2}(G)$  と表わし, 同様に  $O_{p^3}(G)$  によって  $G$  における  $O_p(G/O_{p^2}(G))$  の象像を表わす。この操作を続けて,  $G$  の特性部分群の列

$$1 \subset O_p(G) \subset O_{p^2}(G) \subset O_{p^3}(G) \subset \dots$$

を得る。この列が  $G$  に到達するとき,  $G$  を  $p$  可解群という。そして, その列における剰余群で  $p$  群であるものの個数を  $G$  の  $p$  length という。

$G$  が  $p$  length 1 の群であるとき, 即ち  $G = O_{p^2}(G)$  をみたすとき,  $KG$  の直既約射影加群の Loewy 列を求めることはそれほどむづかしいことではない。例えば  $G$  が  $p$  群のときは, 既約加群は自明なものに限られる。したがって  $KG$  自身が一つの直既約射影加群であって, その Loewy 列を求めるには, 根基のべき  $J^k$  の次元を求めればよいことになる。一方その次元の求め方は Jennings [2] によって与えられている。それ故, この場合直既約射影加群の Loewy 列を求めることは原理的には可能である。また,  $G$  が  $p$  べき零群, 即ち  $G = O_p(G)$  をみたすときは,  $KG$  は  $G$  のある  $p$  部分群  $D_i$  の群多元環上の行列環の直和  $\bigoplus_i (KD_i)_{n_i}$  に同型であることが知られている ([8], [13])。したがって, この場合は本質的に  $p$  群の場合と同様

であると考えてよい。さらに  $p$  群の場合も含めて、 $G$  の Sylow  $p$  部分群が正規であるとき、 $KG$  の直既約射影加群の Loewy 列と socle 列は一致することが知られている ([5])。

他方  $G$  の  $p$  length が 2 以上であるとき、直既約射影  $KG$  加群の Loewy 列を求めることはむづかしく、それに関する一般的な話も少ない。この場合で、具体的に求められているのは、 $G = S_4$  (4 次の対称群)、 $p = 2$  の場合 ([1]) と  $G = (\mathbb{Z}_3 \times \mathbb{Z}_3) \rtimes SL(2, 3)$ ,  $G = (\mathbb{Z}_3 \times \mathbb{Z}_3) \rtimes GL(2, 3)$ ,  $p = 3$  の場合 ([3], [4]) のみである。ここでは、ある種の 3 length 2 の群について、その直既約射影加群の Loewy 列を決定したことを報告する。

§1. 群  $\Gamma(p^m)$  の定義.  $p$  を素数,  $m$  を自然数とし,  $F = GF(p^m)$ ,  $F^* = F - \{0\}$  とおく。次のような  $F$  上の変換のなる集合

$$\Gamma(p^m) = \{F \ni x \rightarrow ax^\alpha + b \mid a \in F^*, b \in F, \alpha \in \text{Aut } F\}$$

は位数  $p^m(p^m - 1)m$  の可解群である。実際,

$$U = \{F \ni x \rightarrow x + b \mid b \in F\}$$

$$H = \{F \ni x \rightarrow ax + b \mid a \in F^*, b \in F\}$$

は  $\Gamma(p^m)$  の正規部分群であって、 $U$  は  $F$  の加法群に同型、

$H/U \cong F^*$ ,  $\Gamma(p^m)/H \cong \text{Aut } F$  であるから、 $U$  は位数  $p^m$  の基本可

換群,  $H/U$  は位数  $p^m-1$  の巡回群,  $\Gamma(p^m)/H$  は位数  $m$  の巡回群である。

$$V = \{F \ni x \rightarrow ax \mid a \in F^*\}$$

$$W = \{F \ni x \rightarrow x^\alpha \mid \alpha \in \text{Aut } F\}$$

とおくと,  $V, W$  はそれぞれ位数  $p^m-1, m$  の巡回群であって  $H = U \rtimes V, \Gamma(p^m) = H \rtimes W$  となる。  $p$  および  $m$  が小さいときは, 次のような同型が成立する:  $\Gamma(3^1) \cong S_3, \Gamma(2^2) \cong S_4$ 。

次に  $r$  を任意の自然数とし, 上記の  $m$  として  $rp$  とする。そのとき上述の如く,  $\Gamma(p^{rp})$  は位数  $p^{rp}(p^{rp}-1)rp$  の可解群である。今,  $\Gamma(p^{rp})$  の部分群として

$$G_{p,r} = \{F \ni x \rightarrow ax^\lambda + b \mid a \in \langle \lambda^{p^r-1} \rangle, b \in F, \lambda \in \text{Gal}(F/\text{GF}(p^r))\}$$

をとる。ここで  $\lambda$  は群  $F^*$  の生成元, 即ち  $F^* = \langle \lambda \rangle$  である。群  $G_{p,r}$  の位数は  $p^{rp+1}(p^{rp}-1)/(p^r-1)$  であるが, その群多元環  $KG_{p,r}$  の根基のべき零指数が  $(rp+1)(p-1)+1$  であることが Motose [9] により証明されている。一般に位数  $p^a q$  ( $p \nmid q$ ) の  $p$  可解群  $G$  に対して,  $KG$  の根基のべき零指数の下限は  $a(p-1)+1$  であることが Wallace [14] により示されている。これに対し,  $G$  の Sylow  $p$  部分群が基本可換群であれば, 根基のべき零指数は  $a(p-1)+1$  に一致する ([10]) が, 上記 Motose の結果は, Sylow  $p$  部分群が可換群でなくとも根基のべき零指数が下限と一致する群の例があることを示している。しかし現在まで

のところで、そのような群の構造は決定されていない。それ故、そのような群多元環に関する種々の情報を得ることが必要と思われる。この様な観点から、群  $G_{3,1}$  および  $\Gamma(3^3)$  に対してそれらの直既約射影加群の Loewy を以下において述べる。

以後 Loewy 列 および socle 列に関して次の記号を用いる。群多元環  $KG$  の加群  $M$  に対して、 $M$  の Loewy 列における  $k$  番目の剰余加群  $J^{k-1}M/J^kM$  を  $L_k(M)$  で表わす。各  $k$  に対して

$$L_k(M) \cong X_{k1} \oplus X_{k2} \oplus \cdots \oplus X_{km_k} \quad (X_{kj} \text{ は既約加群})$$

であって、 $M$  の Loewy length が  $l$  であるとき、 $M$  の Loewy 列を次のように書くことにする。

$$M = \begin{array}{c} X_{11} \cdots X_{1r_1} \\ X_{21} \cdots \cdots \cdots X_{2r_2} \\ \vdots \\ X_{l1} \cdots X_{lr_l} \end{array}$$

一方、 $M$  の socle 列における  $k$  番目の剰余加群  $\text{soc}_k(M)/\text{soc}_{k-1}(M)$  を  $S_k(M)$  で表わす。

§ 2. 結果. 以後、 $p=3$ ,  $G=G_{3,1}$ ,  $\Gamma=\Gamma(3^3)$  とする。

まず、 $G$  について述べる。§1 で述べたように、 $G$  は次の様に定義される  $F=GF(3^3)$  上の変換からなる位数  $3^4 \cdot 13$  の可解群である。

$$G = \{ F \ni x \rightarrow ax^{3^i} + b \mid a \in \langle \lambda \rangle, b \in F, i = 0, 1, 2 \},$$

ただし  $\langle \lambda \rangle = F^*$ . 次の変換が  $G$  の生成元となる.

$$a: x \rightarrow x+1, \quad b: x \rightarrow x+\lambda, \quad c: x \rightarrow x+\lambda^2$$

$$v: x \rightarrow \lambda^2 x, \quad s: x \rightarrow x^3.$$

$U = \langle a, b, c \rangle$ ,  $V = \langle v \rangle$ ,  $W = \langle s \rangle$  とおくと,  $U$  は位数  $3^3$  の基本可換群,  $V, W$  はそれぞれ位数  $13, 3$  の巡回群であり,  $G = (U \rtimes V) \rtimes W$  である.  $H = U \rtimes V$  とおく.  $H/U \cong V$  であるから  $KH$  は  $13$  個の非同型な既約  $KH$ -加群をもち, それらは  $v$  の作用により決まる. 多項式  $X^{13} - 1$  の  $GF(13)$  上における既約多項式への分解は

$$X^{13} - 1 = (X-1)(X^3 - X^2 - X - 1)(X^3 + X^2 + X - 1)(X^3 - X - 1)(X^3 + X^2 - 1)$$

であることから,  $\zeta$  を多項式  $X^3 - X^2 - X - 1$  の 1 つの根とすると,  $\{\zeta, \zeta^3, \zeta^9\}$ ,  $\{\zeta^{12}, \zeta^{10}, \zeta^4\}$ ,  $\{\zeta^2, \zeta^6, \zeta^5\}$ ,  $\{\zeta^{11}, \zeta^7, \zeta^8\}$  がそれぞれ多項式  $X^3 - X^2 - X - 1$ ,  $X^3 + X^2 + X - 1$ ,  $X^3 - X - 1$ ,  $X^3 + X^2 - 1$  の根のなる集合である. そこで,  $V_0$  を自明な既約  $KH$ -加群とし, 表現

$$v \rightarrow \zeta, \quad v \rightarrow \zeta^3, \quad v \rightarrow \zeta^9, \quad v \rightarrow \zeta^{12}, \quad v \rightarrow \zeta^{10}, \quad v \rightarrow \zeta^4,$$

$$v \rightarrow \zeta^2, \quad v \rightarrow \zeta^6, \quad v \rightarrow \zeta^5, \quad v \rightarrow \zeta^{11}, \quad v \rightarrow \zeta^7, \quad v \rightarrow \zeta^8$$

に対応する既約  $KH$ -加群をそれぞれ,  $V_1, V_2, V_3, \dots, V_{12}$  とすれば,  $V_0, V_1, V_2, \dots, V_{12}$  が既約  $KH$ -加群の同型類の代表となる.  $V_1, V_2, V_3, V_7, V_8, V_9$  の双対加群はそれぞれ  $V_4, V_5, V_6,$

$V_{10}, V_{11}, V_{12}$  に同型である。さらに誘導加群について次が成立する。

$$V_0^G = \begin{matrix} I \\ I \\ I \end{matrix}, \quad V_{i+j}^G \cong V_i^G \quad (i=1, 4, 7, 10, j=1, 2),$$

ここで  $I$  は自明な既約  $KG$ -加群。そこで,  $M_1 = V_1^G, M_2 = V_4^G, M_3 = V_7^G, M_4 = V_{10}^G$  とおくと,  $I, M_1, M_2, M_3, M_4$  が既約  $KG$ -加群の同型類の代表となり, 213。  $M_1, M_3$  の双対加群は  $M_2, M_4$  に同型である。既約  $KG$ -加群  $X$  に対し, その射影被覆を  $P_X$  で表わすことにする。

定理 A. 直既約射影  $KG$ -加群の Loewy 列は次のように与えられる。

$$\begin{array}{lcl} & I & M_1 \\ & I \ M_1 & M_2 \ M_2 \ M_3 \\ & I \ M_1 \ M_2 \ M_3 & I \ M_1 \ M_3 \ M_3 \ M_4 \ M_4 \\ & I \ M_1 \ M_2 \ M_3 \ M_3 \ M_4 & I \ M_1 \ M_2 \ M_3 \ M_4 \ M_4 \\ P_I = I \ M_1 \ M_2 \ M_3 \ M_3 \ M_4 \ M_4 & P_{M_1} = & I \ M_1 \ M_1 \ M_2 \ M_4 \\ & I \ M_1 \ M_2 \ M_3 \ M_4 \ M_4 & I \ M_1 \ M_2 \\ & I \ M_1 \ M_2 \ M_4 & I \ M_2 \ M_3 \\ & I \ M_2 & I \ M_3 \ M_4 \\ & I & M_1 \end{array}$$



$$\begin{array}{c}
 M_2 \\
 I \ M_3 \ M_4 \\
 I \ M_1 \ M_2 \ M_3 \ M_4 \\
 I \ M_1 \ M_1 \ M_2 \ M_4 \\
 P_{M_2} = I \ M_1 \ M_2 \ M_2 \ M_3 \\
 I \ M_2 \ M_3 \ M_3 \ M_4 \\
 I \ M_1 \ M_3 \ M_4 \\
 M_1 \ M_4 \\
 M_2
 \end{array}$$

$$\begin{array}{c}
 M_3 \\
 M_1 \ M_3 \ M_4 \\
 M_1 \ M_2 \ M_2 \ M_3 \ M_4 \ M_4 \\
 I \ M_1 \ M_2 \ M_2 \ M_3 \ M_4 \ M_4 \\
 P_{M_3} = I \ I \ M_2 \ M_3 \ M_4 \\
 I \ I \ M_1 \\
 I \ M_1 \\
 M_1 \ M_2 \ M_3 \\
 M_3
 \end{array}$$

$$\begin{array}{c}
 M_4 \\
 M_1 \ M_2 \ M_4 \\
 I \ M_1 \ M_2 \ M_2 \ M_3 \ M_4 \\
 I \ I \ M_2 \ M_3 \ M_3 \ M_4 \\
 P_{M_4} = I \ I \ M_1 \ M_4 \\
 I \ M_1 \ M_1 \ M_3 \\
 M_1 \ M_2 \ M_3 \\
 M_2 \ M_3 \ M_4 \\
 M_4
 \end{array}$$

次に  $\Gamma$  について述べる。  $\Gamma$  は次の標  $F$  上の変換からなる位数  $2 \cdot 3^4 \cdot 13$  の可解群である。

$$\Gamma = \{ F \ni x \rightarrow ax^{3^i} + b \mid a \in F^*, b \in F, i = 0, 1, 2 \}.$$

$G$  は  $\Gamma$  の指数 2 の部分群で、変換

$$F \ni x \rightarrow -x$$

を  $t$  で表わし,  $T = \langle t \rangle$  とおくと,  $\Gamma = G \rtimes T$  となる。  
 一方,  $t$  と  $s$  は可換であるから,  $\Gamma = (U \rtimes (V \rtimes T)) \rtimes W$  と表わすことも出来る。  $T$  は位数 2 であるから  $KT$  は 2 個の既約加群をもつ。それらを  $Z_0$  (自明な加群),  $Z_1$  に表わす。  $V_0, V_1, \dots, V_{12}$  を  $KV$ -加群とみると,

$$U_i = V_i \otimes_K Z_0, \quad W_i = V_i \otimes_K Z_1 \quad (0 \leq i \leq 12)$$

は既約  $KV \rtimes T$ -加群の同型類の代表をとえる。ところで,  $Q = U \rtimes (V \rtimes T)$  とおくと, 同型  $Q/U \cong V \rtimes T$  により, これらの加群を  $KQ$ -加群とみることが出来, 実はこれらの加群が既約  $KQ$ -加群の同型類の代表となっている。これらの既約  $KQ$ -加群の誘導加群について以下が成立する。

$$U_0^\Gamma = \begin{matrix} K & & J \\ & & \\ K & & J \end{matrix}, \quad W_0^\Gamma = \begin{matrix} J \\ & & \\ & & J \end{matrix}, \quad U_{i+j}^\Gamma \cong U_i^\Gamma, \quad W_{i+j}^\Gamma \cong W_i^\Gamma \quad \left( \begin{matrix} i=1, 4, 7, 10 \\ j=1, 2 \end{matrix} \right),$$

ここで,  $K$  は自明な既約  $K\Gamma$ -加群,  $J$  は自明でない 1 次の  $K\Gamma$ -加群。そこで,

$$L_1 = U_1^\Gamma, \quad L_2 = U_4^\Gamma, \quad L_3 = U_7^\Gamma, \quad L_4 = U_{10}^\Gamma, \\ N_1 = W_1^\Gamma, \quad N_2 = W_4^\Gamma, \quad N_3 = W_7^\Gamma, \quad N_4 = W_{10}^\Gamma$$

とおくと,  $K, J, L_i, N_i$  ( $1 \leq i \leq 4$ ) が既約  $K\Gamma$ -加群の同型類の代表であり,  $L_1, L_3, N_1, N_3$  の双対加群がそれぞれ  $L_2, L_4, N_2, N_4$  に同型である。既約  $K\Gamma$ -加群  $Z$  に対し  $Z$  の射影被覆を  $P_Z$  で表わすと,  $KG$ -加群と  $K\Gamma$ -加群の間には次の関係が

成立する。

$$1) \quad K|_G \cong J|_G \cong I, \quad L_i|_G \cong N_i|_G \cong M_i, \quad 1 \leq i \leq 4.$$

$$2) \quad I^\Gamma \cong K \oplus J, \quad M_i^\Gamma \cong L_i \oplus N_i, \quad 1 \leq i \leq 4.$$

$$3) \quad P_I^\Gamma \cong P_K \oplus P_J, \quad P_{M_i}^\Gamma \cong P_{L_i} \oplus P_{N_i}, \quad 1 \leq i \leq 4.$$

4) すべての  $k$  に対して,

$$L_k(P_I)^\Gamma \cong L_k(P_K) \oplus L_k(P_J),$$

$$L_k(P_{M_i})^\Gamma \cong L_k(P_{L_i}) \oplus L_k(P_{N_i}), \quad 1 \leq i \leq 4.$$

5) すべての  $k$  に対して,

$$\dim_K L_k(P_{M_i}) = \dim_K L_k(P_{L_i}) = \dim_K L_k(P_{N_i}), \quad 1 \leq i \leq 4.$$

定理 B. 直既約射影 KP-加群の Loewy 列は次のように与えられる。

K	J
K N <sub>1</sub>	J L <sub>1</sub>
K L <sub>2</sub> L <sub>3</sub> N <sub>1</sub>	J L <sub>1</sub> N <sub>2</sub> N <sub>3</sub>
J L <sub>2</sub> L <sub>3</sub> N <sub>1</sub> N <sub>3</sub> N <sub>4</sub>	K L <sub>1</sub> L <sub>3</sub> L <sub>4</sub> N <sub>2</sub> N <sub>3</sub>
P <sub>K</sub> = J L <sub>1</sub> L <sub>2</sub> L <sub>3</sub> L <sub>4</sub> N <sub>3</sub> N <sub>4</sub>	P <sub>J</sub> = K L <sub>3</sub> L <sub>4</sub> N <sub>1</sub> N <sub>2</sub> N <sub>3</sub> N <sub>4</sub>
J L <sub>1</sub> L <sub>4</sub> N <sub>2</sub> N <sub>3</sub> N <sub>4</sub>	K L <sub>2</sub> L <sub>3</sub> L <sub>4</sub> N <sub>1</sub> N <sub>4</sub>
K L <sub>1</sub> L <sub>4</sub> N <sub>2</sub>	J L <sub>2</sub> N <sub>1</sub> N <sub>4</sub>
K N <sub>2</sub>	J L <sub>2</sub>
K	J

$$\begin{aligned}
& L_1 \\
& N_2 \ N_2 \ N_3 \\
& K \ L_1 \ L_3 \ L_3 \ L_4 \ L_4 \\
& K \ N_1 \ N_2 \ N_3 \ N_4 \ N_4 \\
P_{L_1} = & K \ L_1 \ L_2 \ L_4 \ N_1 \\
& J \ L_2 \ N_1 \\
& J \ L_2 \ L_3 \\
& J \ N_3 \ N_4 \\
& L_1 \\
& L_2 \\
& J \ N_3 \ N_4 \\
& J \ L_1 \ L_2 \ L_3 \ L_4 \\
& J \ L_1 \ N_1 \ N_2 \ N_4 \\
P_{L_2} = & K \ L_1 \ L_2 \ N_2 \ N_3 \\
& K \ L_3 \ L_4 \ N_2 \ N_3 \\
& K \ L_3 \ L_4 \ N_1 \\
& N_1 \ N_4 \\
& L_2 \\
& L_3 \\
& N_1 \ N_3 \ N_4 \\
& L_1 \ L_2 \ L_2 \ L_3 \ L_4 \ L_4 \\
& J \ N_1 \ N_2 \ N_2 \ N_3 \ N_4 \ N_4 \\
P_{L_3} = & K \ J \ L_2 \ L_3 \ L_4 \\
& K \ J \ L_1 \\
& K \ L_1 \\
& N_1 \ N_2 \ N_3 \\
& L_3
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& N_1 \\
& L_2 \ L_2 \ L_3 \\
& J \ N_1 \ N_3 \ N_3 \ N_4 \ N_4 \\
& J \ L_1 \ L_2 \ L_3 \ L_4 \ L_4 \\
P_{N_1} = & J \ L_1 \ N_1 \ N_2 \ N_4 \\
& K \ L_1 \ N_2 \\
& K \ N_2 \ N_3 \\
& K \ L_3 \ L_4 \\
& N_1 \\
& N_2 \\
& K \ L_3 \ L_4 \\
& K \ N_1 \ N_2 \ N_3 \ N_4 \\
& K \ L_1 \ L_2 \ L_4 \ N_1 \\
P_{N_2} = & J \ L_2 \ L_3 \ N_1 \ N_2 \\
& J \ L_2 \ L_3 \ N_3 \ N_4 \\
& J \ L_1 \ N_3 \ N_4 \\
& L_1 \ L_4 \\
& N_2 \\
& N_3 \\
& L_1 \ L_3 \ L_4 \\
& N_1 \ N_2 \ N_2 \ N_3 \ N_4 \ N_4 \\
& K \ L_1 \ L_2 \ L_2 \ L_3 \ L_4 \ L_4 \\
P_{N_3} = & K \ J \ N_2 \ N_3 \ N_4 \\
& K \ J \ N_1 \\
& J \ N_1 \\
& L_1 \ L_2 \ L_3 \\
& N_3
\end{aligned}$$

$$\begin{array}{ccc}
 & L_4 & N_4 \\
 & N_1 \ N_2 \ N_4 & L_1 \ L_2 \ L_4 \\
 & K \ L_1 \ L_2 \ L_2 \ L_3 \ L_4 & J \ N_1 \ N_2 \ N_2 \ N_3 \ N_4 \\
 & K \ J \ N_2 \ N_3 \ N_3 \ N_4 & K \ J \ L_2 \ L_3 \ L_3 \ L_4 \\
 P_{L_4} = & K \ J \ L_4 \ N_1 & P_{N_4} = K^* \ J \ L_1 \ N_4 \\
 & J \ L_1 \ L_3 \ N_1 & K \ L_1 \ N_1 \ N_3 \\
 & L_1 \ L_2 \ L_3 & N_1 \ N_2 \ N_3 \\
 & N_2 \ N_3 \ N_4 & L_2 \ L_3 \ L_4 \\
 & L_4 & N_4
 \end{array}$$

§ 3. 証明の概略. 定理 B は定理 A とその証明方法および § 2, 2) ~ 5) 等を用いることにより得られる. 一方定理 A において,  $P_{M_1}, P_{M_2}, P_{M_3}, P_{M_4}$  の Loewy 列は同様の手法で得られる. そこで, ここでは  $P_I$  および  $P_{M_3}$  の Loewy 列の求め方についてその概略を述べる. なお定理 A については [11], 定理 B については [12] において証明が与えられている. 以後群  $A$  に対し, 群多元環  $KA$  の根基を  $J(KA)$  で表わし,  $A$  の部分集合  $B$  に対し  $KA$  の元  $\sum_{b \in B} b$  を  $\hat{B}$  とおく.

1)  $P_I$  について.  $S = V \rtimes W$  とおき, 自明な  $KS$ -加群を  $\hat{I}$ , その射影被覆を  $\hat{P}_I$  とする.  $\hat{P}_I^G \cong P_I$  であるから  $\hat{P}_I^G$  の Loewy 列を決定すればよい.  $J(KS)^3 = 0$  に注意して,

$$(J(KS)^2 \hat{P}_I^G)^G = X, (J(KS) \hat{P}_I^G)^G = Y, \hat{P}_I^G = Z$$



$$I|_H \cong V_0, \quad M_1|_H \cong V_1 \oplus V_2 \oplus V_3, \quad M_2|_H \cong V_4 \oplus V_5 \oplus V_6,$$

$$M_3|_H \cong V_7 \oplus V_8 \oplus V_9, \quad M_4|_H \cong V_{10} \oplus V_{11} \oplus V_{12}$$

に注意すると,  $X$  の Loewy 列は

$$X = \begin{array}{c} I \\ M_1 \\ M_2 \ M_3 \\ I \ M_3 \ M_4 \\ M_1 \ M_4 \\ M_2 \\ I \end{array}$$

であることがわかる。次に  $Y$  については,

$$J(KG)^k Y = J(KU)^k \hat{V} J(KW) + J(KG)^{k-1} X$$

が成立する。これより次の包含関係を得る。

$$J(KG)^k Y \subset J(KG)^k Y + J(KG)^{k-2} X \subset J(KG)^{k-1} Y.$$

とこらから,

$$J(KG)^k Y + J(KG)^{k-2} X / J(KG)^k Y \cong L_{k-1}(X),$$

$$J(KG)^{k-1} Y / J(KG)^k Y + J(KG)^{k-2} X \cong L_k(X)$$

が成立する。それ故

$$J(KG)^{k-1} Y / J(KG)^k Y \cong L_{k-1}(X) \oplus L_k(X)$$

を得る。このことから  $Y$  の Loewy 列は

$$Y = \begin{array}{ccccccc} & & I & & & & \\ & & M_1 & & I & & \\ & & M_2 & M_3 & & M_1 & \\ I & M_3 & M_4 & & M_2 & M_3 & \\ & M_1 & M_4 & I & M_3 & M_4 & \\ & & M_2 & & M_1 & M_4 & \\ & & I & & M_2 & & \\ & & & & I & & \end{array}$$

であることがわかる。Z についても同様に,

$$J(KG)^k Z = J(KU)^k \hat{V} J(KW) + J(KG)^{k-1} Y$$

が成立し, 包含関係

$$J(KG)^k Z \subset J(KG)^k Z + J(KG)^{k-2} Y \subset J(KG)^{k-1} Z$$

および同型

$$J(KG)^k Z + J(KG)^{k-2} Y / J(KG)^k Z \cong L_{k-1}(Y),$$

$$J(KG)^{k-1} Z / J(KG)^k Z + J(KG)^{k-2} Y \cong L_k(X)$$

を得る。したがって

$$J(KG)^k Z / J(KG)^{k-1} Z \cong L_{k-1}(Y) \oplus L_k(X)$$

が成り立つ。この様にして  $P_1$  の Loewy 列は定理 A で述べたものであることがわかる。

$P_{M_3}$  の Loewy 列について述べる前に上記の事実に関することを記しておく。序文で述べた直既約射影加群の Loewy 列の知られている例  $S_4$  ( $p=2$ );  $(\mathbb{Z}_3 \times \mathbb{Z}_3) \rtimes SL(2,3)$  ( $p=3$ ) についても,



$P_I$  の Loewy 列は上記と同様の構造をしている。具体的に言う  
と,  $G = S_4$ ,  $p=2$  のとき,  $KG$  は 2 個の既約加群  $I$  (自明な加  
群),  $M$  (2 次の加群) をもつ。上記の  $X$  に対応する加群の Loewy

列は  $\begin{array}{c} I \\ M \\ I \end{array}$  であり,  $P_I$  の Loewy 列は  $\begin{array}{c} I \\ MI \\ IM \\ I \end{array}$  である。一方,

$G = (\mathbb{Z}_3 \times \mathbb{Z}_3) \rtimes SL(2, 3)$ ,  $p=3$  の場合,  $KG$  は 3 個の既約加  
群をもつ。それらをその次元で表示して, 1, 2, 3 と表わす

と, 上記  $X$  に対応する加群の Loewy 列は,  $\begin{array}{c} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 2 \\ 1 \end{array}$  であり,  $P_I$  の

Loewy 列は  $\begin{array}{c} 1 \\ 2 \ 1 \\ 3 \ 2 \ 1 \\ 2 \ 3 \ 2 \\ 1 \ 2 \ 3 \\ 1 \ 2 \\ 1 \end{array}$  とは, している。さらに, これらに関連

する結果として次のような結果がある。

(Lorenz [7])  $G = (U \rtimes V) \rtimes W$ ,  $U: p$  群,  $V: p'$  群,  
 $W$ : 位数  $p^a$  の基本可換群とする。  $M$  を既約  $KG$ -加群とし,  
 $p^a \mid \dim M$ ,  $p^{a+1} \nmid \dim M$  とする。そのとき,  $S = V \rtimes W$  とおく  
と,  $M$  の射影被覆の Loewy length は

$(a-a)(p-1) + (M/5)^G$  の Loewy length  
に等しい。

上記の観察から, Lorenz の結果において述べた条件をみたす群に対しては,  $P_i$  の Loewy 列は, 自明な KS-00 群  $\hat{I}$  の誘導加群  $\hat{I}^G$  の Loewy 列を 1 つずつ下げて  $(a-1)(p-1)+1$  個並べたものになっているのではないかと思われる。なお, 自明でない加群についても, 例えば,  $(\mathbb{Z}_3 \times \mathbb{Z}_3) \rtimes SL(2, 3)$ ,  $p=3$  の場合, 2 次の既約加群について上記と同様な状況が生じている。

2)  $P_{M_3}$  について.  $V_7$  の射影被覆を  $\tilde{P}_{V_7}$  とすると,  $P_{M_3} \cong \tilde{P}_{V_7}^G$  が成立する。一方,  $\tilde{P}_{V_7}$  の Loewy 列は,

$$\begin{array}{c} V_7 \\ V_2 \ V_9 \ V_{10} \\ V_1 \ V_4 \ V_6 \ V_8 \ V_{11} \ V_{12} \\ \tilde{P}_{V_7} = V_0 \ V_3 \ V_5 \ V_6 \ V_7 \ V_{11} \ V_{12} \\ V_0 \ V_2 \ V_3 \ V_5 \ V_9 \ V_{10} \\ V_1 \ V_4 \ V_8 \\ V_7 \end{array}$$

である。これより,  $i=0, 1, 2$  に対し

$$(J(KH)^i \tilde{P}_{V_7} / J(KH)^{i+1} \tilde{P}_{V_7})^G \cong J(KG)^i P_{M_3} / J(KG)^{i+1} P_{M_3}$$

であることがわかる。よって  $L_i(P_{M_3})$  ( $i=1, 2, 3$ ) は得られる。

次に,

$$A = J(KH)^3 \tilde{P}_{V_7} / J(KH)^5 \tilde{P}_{V_7} = \begin{matrix} V_0 & V_3 & V_5 & V_6 & V_7 & V_{11} & V_{12} \\ V_0 & V_2 & V_3 & V_5 & V_9 & V_{10} \end{matrix}$$

について考える。  $A$  の剰余加群として

$$X = \begin{matrix} V_0 & V_3 & V_5 & V_6 & V_7 & V_{11} & V_{12} \\ & & & V_8 & V_9 & V_{10} & \end{matrix} \quad Y = \begin{matrix} V_0 & V_3 & V_5 & V_6 & V_7 & V_{11} & V_{12} \\ & & & & & V_2 & V_3 \end{matrix}$$

をとる。  $\hat{P}_{V_i}$  ( $i=0, 5, 9, 10$ ) の Loewy 列は同時に Socle 列であるから、それらを求めることにより、 $S_2(X)$  の組成因子として  $V_0$  は生じないことがわかる。したがって

$$X = V_0 \oplus \begin{matrix} V_3 & V_5 & V_6 & V_7 & V_{11} & V_{12} \\ V_0 & V_5 & V_9 & V_{10} \end{matrix}$$

で あり

$$X^G = \begin{array}{ccccccc} & I & & M_1 & M_2 & M_2 & M_3 & M_4 & M_4 \\ X^G = & I & \oplus & I & M_2 & M_3 & M_4 & & \\ & I & & I & & & & & \\ & & & I & & & & & \end{array}$$

を得る。一方、自然な単射  $A \rightarrow X \oplus Y$  が存在し、 $S_2(A) \supset V_0$  であるから、 $S_2(Y) \supset V_0$  でなければならぬ。したがって、 $Y^G$  の Loewy 列は次のいずれかである。

(a)	(b)	(c)
$I M_1 M_2 M_2 M_3 M_4 M_4$	$I M_1 M_2 M_2 M_3 M_4 M_4$	$I M_1 M_2 M_2 M_3 M_4 M_4$
$I$	$I$	$I M_1$
$I$	$I M_1$	$I$
$M_1 M_1$	$M_1$	$M_1$

以上の事実から  $L_4(P_{M_3})$  が得られ,

$$L_5(P_{M_3}) \supseteq I \oplus I \oplus M_2 \oplus M_3 \oplus M_4,$$

$$L_6(P_{M_3}) \supseteq I \oplus I,$$

$$L_7(P_{M_3}) \supseteq I \oplus M_1$$

を得る。  $KG$  のカルタン行列は

$$\begin{matrix} P_I \\ P_{M_1} \\ P_{M_2} \\ P_{M_3} \\ P_{M_4} \end{matrix} \begin{pmatrix} 9 & 6 & 6 & 6 & 6 \\ 6 & 7 & 6 & 6 & 6 \\ 6 & 6 & 7 & 6 & 6 \\ 6 & 6 & 6 & 7 & 6 \\ 6 & 6 & 6 & 6 & 7 \end{pmatrix}$$

であるから、以上のことから残された2個の  $M_1$  と  $M_2, M_3$  各1個づつについて、 $P_{M_3}$  の Loewy 列の何番目に生じるかを調べればよい。これについては、 $M_i$  に対応する原始中等元を  $e_i$  とすると

$$\dim_K e_i J(KG)^k e_3 - \dim_K e_i J(KG)^{k+1} e_3$$

が  $L_k(P_{M_3})$  の組成因子として生じる  $M_i$  の個数を表わすことから、具体的にこれを計算することにより最終的に決定する。

以上により、 $P_I$  および  $P_{M_3}$  の Loewy 列は得られる。それ故、次の結果

(Landrock [6]) 既約  $KG$ -加群  $M, N$  とその双対加群  $M^*, N^*$  に対して,  $L_k(P_M)$  の組成因子として生じる  $N$  の個数と  $L_k(P_{N^*})$  の組成因子として生じる  $M^*$  の個数は同じである。

により,  $PM_1, PM_2, PM_4$  の Loewy 列における  $I$  と  $M_4$  の生じる場所がわかる。このことと  $PM_3$  の場合と同様の手法を用いることにより  $PM_1, PM_2, PM_4$  の Loewy 列は決定される。

#### References

- [1] B. Huppert and N. Blackburn: Finite Groups II, Springer-Verlag, 1982.
- [2] S. A. Jennings: The structure of the group ring of a  $p$ -group over a modular field, Trans. Amer. Math. Soc. 50(1941), 175-185.
- [3] S. Koshitani: On the Loewy series of the group algebra of a finite  $p$ -solvable group with  $p$ -length  $> 1$ , Comm. Alg. 13 (1985), 2175-2198.
- [4] S. Koshitani: On group algebras of finite groups, In Representation Theory II Groups and Orders: Lecture Notes in Math. 1178, Springer-Verlag, 1986, 109-128.
- [5] P. Landrock: Some remarks on Loewy lengths of projective modules, In Representation Theory II: Lecture Notes in Math. 832, Springer-Verlag, 1980, 369-381.
- [6] P. Landrock: Finite Group Algebras and their Modules, London Math. Soc. Lecture Note Series 84, Cambridge Univ. Press, 1983.
- [7] M. Lorenz: On Loewy lengths of projective modules for  $p$ -solvable groups, Comm. Alg. 13(1985), 1193-1212.

- [8] K. Morita: On group rings over a modular field which possess radicals expressible as principal ideals, Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daigaku A4(1951), 177-194.
- [9] K. Motose: On the nilpotency index of the radical of a group algebra III, J. London Math. Soc. 25(1982), 39-42.
- [10] K. Motose and Y. Ninomiya: On the nilpotency index of the radical of a group algebra, Hokkaido Math. J. 4(1975), 261-264.
- [11] Y. Ninomiya: On the Loewy structure of the projective indecomposable modules for a 3-solvable group I, Math. J. Okayama Univ. 29(1987), to appear.
- [12] Y. Ninomiya: On the Loewy structure of the projective indecomposable modules for a 3-solvable group II, Math. J. Okayama Univ. 29(1987), to appear.
- [13] M. Osima: On primary decomposable group rings, Proc. Phys.-Math. Soc. Japan 24(1942), 1-9.
- [14] D. A. R. Wallace: Lower bounds for the radical of the group algebra of a finite p-soluble group, Proc. Edinburgh Math. Soc. 16(1968/69), 127-134.